

「第23回電撃大賞」応募総数速報

小説・イラスト・コミックの3部門で 応募総数5,803作品

株式会社KADOKAWA(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:松原真樹)アスキー・メディアワークスが、次代を創造するエンターテイナーの発掘・育成を目的に主催しております「電撃大賞」は、4月10日に第23回に応募締め切りを迎え、今回も多数の作品をお寄せいただきました。このたび、第23回に応募総数の集計結果がまとまりましたので、お知らせいたします。

電撃大賞では、電撃小説大賞(小説部門)、電撃イラスト大賞(イラスト部門)、電撃コミック大賞(コミック部門)の3部門において、ジャンルを問わず作品を募集しております。特に電撃小説大賞は、小説新人賞としては国内最大級の応募数を誇っております。今回の第23回では、電撃大賞全体の応募総数は、3部門合計で5,803作品となりました。

「第23回電撃大賞」応募総数 5,803作品

【電撃小説大賞】	4,878 作品 (長編:3,410 作品/短編:1,468 作品)
【電撃イラスト大賞】	591 作品
【電撃コミック大賞】	334 作品

応募作品は現在選考中で、電撃小説大賞・電撃イラスト大賞・電撃コミック大賞の1次選考通過作品は7月9日以降に電撃大賞公式サイトおよび電撃の各誌にて発表いたします。その後、2次～4次選考(電撃イラスト大賞・電撃コミック大賞は～3次選考)、最終選考を経て、受賞作品を決定いたします。受賞作品の発表は、10月に『電撃文庫MAGAZINE』誌上と電撃のコミック各誌および電撃大賞公式サイトにて行う予定です。なお、電撃小説大賞・電撃イラスト大賞・電撃コミック大賞の1次選考以上の通過者には、編集部より選評をお送りいたします。

アスキー・メディアワークスでは、電撃小説大賞において入賞した作品はもちろん、惜しくも選に漏れた作品の中からも、電撃文庫、メディアワークス文庫などで書籍化しており、これまで数多くの人気作品を刊行、人気作家を育ててまいりました。電撃イラスト大賞受賞者からも人気イラストレーターが多数誕生し、カバーイラストなどで活躍しております。電撃コミック大賞も、前身となるコミック新人賞「電撃コミックグランプリ」や、電撃コミック大賞が新設された第21回以降の受賞者から多くのコミック作家が誕生しており、電撃のコミック各誌で活躍しております。今後も、本大賞は新しい時代のエンターテイナーの登竜門として、さらに幅広い才能の発掘を目指し努力してまいります。

なお、5月10日より、第24回電撃大賞の作品応募の受付を開始いたしました。締め切りは2017年4月10日を予定しております。

<ご参考>

■「電撃大賞」とは

「電撃大賞」は1993年、作家・イラストレーターの新人登竜門「電撃ゲーム3大賞」としてスタート、第12回(2004年度募集)より「電撃大賞」に改称されました。

小説部門の「電撃小説大賞」からは多くの人気作家を輩出し、『ブギーポップは笑わない』(著/上遠野浩平・第4回大賞)、『灼眼のシャナ』(著/高橋弥七郎・第8回選考委員奨励賞)、『図書館戦争』シリーズ(著/有川 浩・第10回大賞)、『境界線上のホライゾン』(著/川上 稔・第3回金賞)、『狼と香辛料』(著/支倉凍砂・第12回銀賞)、『神様のメモ帳』(著/杉井 光・第12回銀賞)、『ロウきゅーぶ!』(著/蒼山サグ・第15回銀賞)、『はたらく魔王さま!』(著/和ヶ原聡司・第17回銀賞)、『ゼロから始める魔法の書』(著/虎走かける・第20回大賞)、『ちょっと今から仕事やめてくる』(著/北川恵海・第21回メディアワークス文庫賞)などの人気作品が生まれてきました。直近の受賞作『ただ、それだけでよかったんです』(著/松村涼哉・第22回大賞)なども好評を博しております。多くの作品が小説だけに留まらず、アニメ、コミック、実写映画、ゲーム、舞台など、さまざまなメディア展開を行っており、2016年度は『ネトゲの嫁は女の子じゃないと思った?』(著/聴猫芝居・第18回金賞)が4月よりTVアニメ放送中、『アクセル・ワールド』(著/川原礫・第15回大賞)の新作アニメが7月23日より全国ロードショー、『ソードアート・オンライン』(著/川原 礫)の劇場版アニメも2017年公開が決定しております。

イラスト部門の「電撃イラスト大賞」受賞者も文庫のイラストなどを多数手がけており、単行本『図書館戦争』(著/有川 浩・第10回大賞、イラスト/徒花スクモ・第10回金賞)、電撃文庫『最強をこじらせたレベルカンスト剣聖女ベアトリーチェの弱点 その名は『ぶーぶー』』(著/鎌池和馬、イラスト/真早・第17回金賞)、『ねじ巻き精霊戦記 天鏡のアルデラミン』(著/宇野朴人、イラスト/竜徹・第18回銀賞、キャラクター原案/さんば挿)、『レオ・アッティール伝』(著/杉原智則、イラスト/岡谷・第21回金賞)、メディアワークス文庫『ビブリア古書堂の事件手帖』(著/三上 延、イラスト/越島はぐ・第15回銀賞)、『心理コンサルタント才希と心の迷宮』(著/似鳥航一、イラスト/三村勇貴・第18回大賞)、『博多豚骨ラーメンズ』(著/木崎ちあき・第20回大賞、イラスト/一色 箱・第20回大賞)など、目覚ましい活躍を見せております。

コミック部門の「電撃コミック大賞」は、第21回電撃大賞から設置された部門です。受賞者は電撃のコミック各誌で活躍しております。月刊コミック電撃大王では『やがて君になる』(仲谷 鳩・第21回金賞)、『ちゅうふれ。』(きあま紀一・第21回銀賞)の2作品が連載中、単行本コミックスも刊行しております。電撃マオウでは『ゼロから始める魔法の書 なの!』(作画/安岳・第21回銀賞)が連載中です。

●電撃大賞公式サイト: <http://dengekitaisho.jp/>

●電撃大賞公式Twitterアカウント: @dengeki_taisho

■「第24回電撃大賞」主な応募要項

●応募ジャンル: 電撃小説大賞(小説部門)、電撃イラスト大賞(イラスト部門)、電撃コミック大賞(コミック部門)

●賞(小説・イラスト・コミック部門共通):

大賞＝正賞＋副賞 300万円

金賞＝正賞＋副賞 100万円

銀賞＝正賞＋副賞 50万円

<小説部門のみ>

メディアワークス文庫賞＝正賞＋副賞 100万円

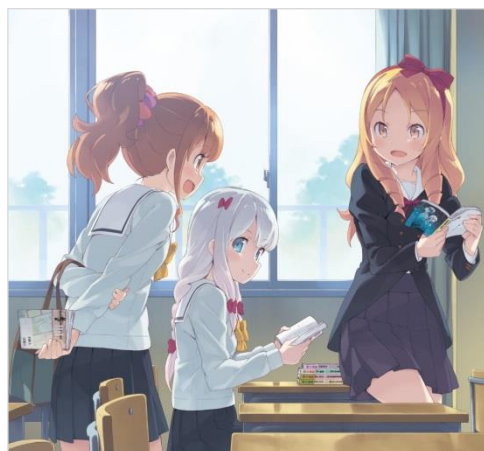
電撃文庫MAGAZINE賞＝正賞＋副賞 30万円

●最終締め切り: 2017年4月10日(当日消印有効)

●応募方法: 郵送(応募締め切り当日の消印有効)。
もしくは「電撃大賞」公式サイトのお申し込み
フォームよりウェブ応募

●選考方法:

締め切り後、小説部門は1次～4次、イラスト・コミック部門は1～3次の選考を行い、最終候補作を選出。2017年9月に、最終選考委員により大賞および各賞の受賞作品を決定します。



↑ 第24回電撃大賞イメージイラスト
イラスト/かんざきひろ 電撃文庫『エロマンガ先生』(著/伏見つかさ)

【電撃小説大賞】(小説部門)

募集内容:

オリジナルの長編および短編小説。ファンタジー、SF、ミステリー、恋愛、歴史、ホラーほかジャンルを問わず。未発表の日本語で書かれた作品に限る(他の公募に応募中の作品も不可)。

最終選考委員(敬称略):

高畑京一郎(作家)、時雨沢恵一(作家)、佐藤竜雄(アニメーション演出家)、神 康幸(映像プロデューサー/株式会社オフィスクレッシェンド 取締役副社長)、佐藤辰男(カドカワ株式会社 代表取締役会長)、鈴木一智(株式会社KADOKAWA アスキー・メディアワークス事業局 統括部長)、和田 敦(電撃文庫編集長、文庫プロデュース課編集長)、佐藤達郎(メディアワークス文庫編集長)

【電撃イラスト大賞】(イラスト部門)

募集内容: 未発表(他の公募に応募中の作品も不可)のオリジナル作品。

最終選考委員(敬称略):

天野喜孝(画家、イラストレーター)、出渕 裕(デザイナー、イラストレーター、アニメーション監督)、衣谷 遊(漫画家)、緒方剛志(イラストレーター)、いとうのいぢ(イラストレーター、ゲーム原画家)、湯浅隆明(電撃文庫編集長代理、電撃文庫MAGAZINE副編集長)

【電撃コミック大賞】(コミック部門) ※第21回より新設

募集内容:

◆少年マンガ作品

10代から20代の男性読者を想定としたオリジナルコミックを募集。ファンタジー、SF、ミステリー、恋愛、歴史、ホラーほかジャンルを問わず。未発表の日本語で書かれた作品に限る(他の公募に応募中の作品も不可)。

◆少女マンガ作品

10代から20代の女性読者を想定としたオリジナルコミックを募集。ファンタジー、SF、ミステリー、恋愛、歴史、ホラーほかジャンルを問わず。未発表の日本語で書かれた作品に限る(他の公募に応募中の作品も不可)。

◆コミカライズ作品 電撃文庫・メディアワークス文庫を課題作品としてコミック化した作品。

◆コミック原作作品 未発表のオリジナル作品の原作。ネーム(絵コンテ)またはテキストによる応募。

最終選考委員(敬称略):

高河ゆん(漫画家)、綱島志朗(漫画家)、大河内一楼(アニメーション脚本家)、芝村裕吏(ゲームデザイナー、小説家)、鈴木一智(株式会社KADOKAWA アスキー・メディアワークス事業局 統括部長)、梅澤 淳(株式会社KADOKAWA アスキー・メディアワークス事業局 第1編集部 担当部長)

■「電撃文庫」とは

1993年6月創刊の文庫レーベル。「電撃文庫」ではこれまで、ファンタジー、SF、ミステリー、ホラー、ラブコメなど、ジャンルを問わないオリジナルなエンターテインメント作品を刊行してまいりました。『とある魔術の禁書目録(インデックス)』(シリーズ累計1,580万部)をはじめ、『灼眼のシャナ』(同860万部)、『キノの旅』(同800万部)、『デュラララ!!』(同560万部)、『狼と香辛料』(同400万部)、『俺の妹がこんなに可愛いわけがない』(同500万部)、『アクセル・ワールド』(同470万部)、『ソードアート・オンライン』(同1,210万部)、『はたらく魔王さま!』(同255万部)、『魔法科高校の劣等生』(同720万部)、など、数多くの大人気シリーズを生み出しています。2016年は『ネトゲの嫁は女の子じゃないと思った?』(同100万部)が4月よりTVアニメ放送中のほか、『ねじ巻き精霊戦記 天鏡のアルデラミン』(同70万部)が7月よりTVアニメ放送開始予定、『アクセル・ワールド』新作アニメが7月23日より全国ロードショー予定です。また『ソードアート・オンライン』の劇場版アニメも2017年公開が決定しています。現在活躍中の人気作家の多くは、創刊と同年にスタートした小説・イラスト・コミックの新人登竜門「電撃大賞」より誕生しています。アニメ、コミック、実写映画、ゲーム、音楽、イベントなど、さまざまなメディアミックスも展開。2015年10月からはファンクラブサービス「電撃文庫CLUB」も展開中で、「電撃文庫」は多くの方々に楽しんでいただいております。毎月10日発売。

●「電撃文庫」公式サイト: <http://dengekibunko.jp/>

●電撃文庫CLUB: <http://dengekibunko.jp/club/>

●「電撃文庫」公式Twitterアカウント: @bunko_dengeki

■「電撃文庫MAGAZINE」とは

2008年4月創刊「電撃文庫ファンのための最強エンタテインメントマガジン」。電撃文庫の人気シリーズやアニメ化が決定した作品の情報、人気シリーズの書き下ろし短編などを掲載し、電撃文庫を一層楽しむためのさまざまな企画が詰まった雑誌です。フィギュア、ドラマCD、ポスター、ステーションナリーなど、毎号付く豪華オリジナル付録も人気となっています。偶数月10日発売。

- 「電撃文庫MAGAZINE」公式サイト: <http://dengekibunko.jp/magazine/>

■「メディアワークス文庫」とは

2009年12月創刊、アスキー・メディアワークスが贈るエンターテインメント・ノベル。恋愛、ミステリー、歴史など、さまざまなジャンルの小説を刊行しています。メディアワークス文庫からは、『ビブリア古書堂の事件手帖』(著／三上 延、シリーズ累計発行600万部)、『神様の御用人』(著／浅葉なつ、同95万部)、『0能者ミナト』(著／葉山 透、累計発行57万部)、『探偵・日暮旅人』シリーズ(著／山口幸三郎、同50万部)、『オーダーは探偵に』シリーズ(著／近江泉美、同40万部)、『ちょっと今から仕事やめてくる』(著／北川恵海、同45万部)、『お待ちしてます 下町和菓子 栗丸堂』(著／似鳥航一、同37万部)、『絶対城先輩の妖怪学講座』(著／峰守ひろかず、同25万部)などのヒット作品が生まれています。コミック、実写ドラマ化などメディアミックス展開も盛んで、幅広い層の方々に楽しんでいただいております。毎月25日発売。

- 「メディアワークス文庫」公式サイト: <http://mwbunko.com/>
- 「メディアワークス文庫」公式Twitterアカウント: @mwbunko

■電撃ブランドのコミックについて

電撃ブランドでは、最強コミックマガジン「月刊コミック電撃大王」(毎月27日発売)を中心に、4コマ&ギャグ専門の「コミック電撃だいおうじ」(毎月27日頃発売)、ゲーム・コミック誌「電撃マオウ」(毎月27日発売)、女性向けの「シルフ」(毎月22日発売)など、複数のコミック誌を展開しております。「電撃コミック大賞」の前身「電撃コミックグランプリ」やコミック各誌が行っている新人賞の受賞者は、オリジナル作品やゲーム・アニメなどのコミカライズ作品を手掛け、「電撃コミックス」(毎月27日発売)、「電撃コミックスNEXT」(毎月10日・27日発売)、「電撃コミックスEX」(毎月27日発売)、「シルフコミックス」(毎月22日発売)などのコミックスレーベルから多数発売されています。また、2016年は7月より『この美術部には問題がある!』(作／いみぎむる、電撃マオウ連載)がTVアニメ放送開始予定など、メディアミックス展開も行っております。

- 電撃コミックWEB: <http://dc.dengeki.com/>

■アスキー・メディアワークスとは

アスキー・メディアワークスは、小説、コミック、ゲーム、ホビーなど、エンターテインメント分野を中心とした事業を展開。出版を基盤に、ウェブ・モバイル、電子書籍、アプリ、映像、音楽、グッズ、ゲーム、イベントなど、メディアを超えてコンテンツをプロデュースしています。

- KADOKAWA公式サイト: <http://www.kadokawa.co.jp/>
- アスキー・メディアワークス公式サイト: <http://asciimw.jp/>

以上

【本件に関する報道関係からのお問い合わせ先】
株式会社KADOKAWA
アスキー・メディアワークス
<http://asciimw.jp/>